

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075600090		
法人名	有限会社 三益		
事業所名	グループホーム 田苑		
所在地	宮若市 福丸247番地1		
自己評価作成日	令和元年10月16日	評価結果確定日	令和元年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和元年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内では経験豊かな外部講師を招いた職員研修会を開催し、講師へ相談したり助言を頂きながらホームの活動・運営に役立てています。またホーム外の研修にも積極的に参加し、キャリアアップやケアの質の向上に努めています。ホームでの行事(ボランティアの方による演奏会・三味線・ひょっとこ踊り・講師による月2回の健康体操)、ホーム外での行事(四季の花見ドライブ、文化祭、年2回地域の観光協会主催の芋堀り等)など地域の方やご家族などに高齢者介護やGHへの理解を深めていただけるよう取り組んでいます。自家農園で野菜を栽培し、不定期で利用者様と一緒に収穫し、下ごしらえなどを行うことで四季を感じていただいています。利用者様と職員で同じ食卓を囲んでいます。食事やおやつは出来る限り全員一緒に食堂で楽しく召し上がって頂いています。昼間は共同スペースで過ごしていただく事で、寝たきりにならない環境作りに努めています。今後も残存機能を維持できるように個別リハビリを継続していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所以来の理念である「地域の一員として、尊厳を持って生きていく」を具現化しできることを維持するために、旬の野菜や果物が食卓に上がり、毎日健康体操で心身をほぐし、外出の機会を設けている。深夜までテレビを観るなどの入居前の生活習慣を受け入れながら、夜間頻尿の改善を支援したり、本人の家に帰りたいとの思いを目標に立ち上がりや歩行のリハビリを支援している。敬老会時の家族会は家族の顔合わせの機会となり、家族と一緒に外出を支援したいと、ホーム新聞で年間行事を案内している。運営推進会議では、受診同行回数が多いことやボランティア来訪が多いことに、労いなどの感想があった。又、地区自治会の総会や懇親会の参加、地域行事の山笠の巡行が恒例となり、地域の一員としての地位を築いている。永年月1回開催している職員研修会で知識やスキルアップに努め、再入居の希望があるなど、今後もホームが馴染みの人や場として地域に密着したサービスの提供が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホーム 田苑**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を玄関、リビングに提示して、申し送り、ミーティング等で実践の有無を確認している。管理者は職員へ反省点を助言して実践につなげている。 ボランティアの演奏や踊りの訪問、地域の商店との交流が継続されている	開所以来の理念である「地域の一員として、尊厳を持って生きていく」を具現化したケアに取り組んでいる。できることを維持するために、旬の野菜や果物が食卓に上がり、毎日健康体操で心身をほぐし、外出の機会を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し総会、親睦会、地域の行事等に参加し交流を深めている。年3回の地域清掃にスタッフが交代で参加している。 七夕飾りの笹は毎年米屋さんが好意で準備してくださっている。	今年も巡回した山笠を全員で笑顔で迎え、ボランティアの来所も継続している。施設長が地区自治会の総会に参加し、懇親会では十八番の披露が恒例となり、地域の一員としての地位を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの健康体操、演奏会、毎月の勉強会等、地域の方にも開放して利用者様と一緒に参加していただいている。地域の方へ認知症の方の理解を深める機会となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での推進委員の意見・助言等、その都度職員に周知して改善を指示してサービス向上に生かしている。	全家族に運営推進会議を案内し、適切なメンバーで会議を開催している。行事や運営状況を報告し、会議録を玄関に公表している。受診同行回数が多いことやボランティア来訪が多いことに、労いなどの感想があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に運営推進会議への参加を仰ぎ、実情を把握していただいた上で、相談を行い、助言・指導等をいただいている。	参加している地域同業者協議会を通じて市と連携することが多く、毎月地域包括支援センターに報告している居室の利用状況は市のホームページに掲載されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内外の勉強会等で学習する機会を持っており、全職員が理解するように努めている。ベッド柵が必要な場合は「緊急やむ得ない身体拘束に関する説明書や記録」を利用者様・ご家族に説明して、承諾をいただいている。利用者様の状況、職員体制に応じて玄関は開錠している。	3ヶ月毎に施設長やケアマネージャー、看護職員などで適正化委員会を開催している。地域同業者協議会やホーム内の研修で、身体拘束について学習している。家族の了解を得てセンサーや食事用エプロンを使用したり、大きな声などはその場で注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外の勉強会等で学習する機会を持っている。管理者は日々の生活の中で入居者のご様子の変化等に注意を払い虐待防止に努めている。苑外研修で虐待事例などの情報をスタッフ全員で共有し注意しながらケアに努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加して学ぶ機会を設けている。入居者で成年後見人制度を利用されている方もおられる。。後見人とご家族との仲立ちなど各々の相談に応じ支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを玄関に整備し、状況に応じて紹介する予定である。現在、1名の入居者が成年後見制度を活用されているが、後見人の来所はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時十分に説明を行い了承を得たうえで契約している。又、制度改正がある場合は再度説明して、同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置している。利用者様・ご家族の意見要望は、管理者・事務長が傾聴し、職員で話し合い、問題解決に努めている。	年間行事や写真を掲載したホーム新聞を発行し、9月の敬老会で家族会を開催している。特段の意見はなかったが、参加された3家族の顔合わせの機会となっている。家族来所時は日頃の状況を報告しているが、家族の仕事などの悩みを伺うなど、入居者や家族を一体として支援している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティング、月1回の勉強会等で出た意見要望は早急に話し合い、検討して反映できるように努めている。	定期的に開催されているミーティングでは、日頃の業務を振り返り、率直な意見交換が行われている。日勤の支援経過の簡潔で具体的な記載について、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、個々の職員と折々に面接している。勤務状況等で気が付いた時は職員の思いが話せる環境を作り、職員の働きやすい環境を整備するよう努めるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別では差別していない。 管理者は、職員が希望に応じて勤務できるよう配慮している。	40～70歳代の職員が多様な働き方で勤務している。中には入居者の家族の入職の申し出を受け、施設長が勤務先に相談した職員もある。地元出身の施設長の声かけで、入職する職員も多くあり芋ほりなどのボランティアもお願いしている。又、外部研修参加の推奨だけではなく、永年月1回開催している職員研修会で知識やスキルアップに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内外の勉強会などに参加して学ぶ機会をもって実践に取り組んでいる。利用者様の人権を尊重する為、職員全員で声掛けしながら対応している。	永年毎月1回開催している勉強会の講師に身体拘束や虐待防止に関する講和をお願いし、人権研修に取り組んでいる。保険者主催の人権研修会にも参加し、伝達講習も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の自主的な研修参加に配慮している。時間的な調整・支援に加え、資金的にも援助している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市の同業者でのGHみやわかの勉強会・親睦会に毎月参加し交流している。意見交換の場となり、サービスの質の向上につながっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は利用者の状況把握の為、日勤・夜勤の職員を増員して、入居者様とコミュニケーションを多くとり、利用者様の要望に対応できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者様・ご家族様に見学に来ていただき、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がるように取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受ける事ができるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬の念をもって信頼関係を構築している。入居者様から人生の経験で学ぶことが多くあり職員全員で実感している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、意向を聞きながら、利用者様と良い関係が築き上げられるよう努めている。利用者様の近況をご家族に報告し、面会や外出など家族の絆を持てる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や親しい人の訪問等は常に勧めている。	近所の方の来所や、家族と外食に出かけたり、盆に自宅に外泊される方もあり、関係継続を支援している。葬儀に職員が参加した方の家族から野菜の差し入れや再入居の希望があるなど、ホームが馴染みの人や場となっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状況に合わせ孤立しないように、利用者同士が関わり合える環境づくりに努めている。重度の利用者にケアが偏らないよう軽度の利用者には言葉かけを多くするなどの工夫をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者様・ご家族に会ったときは状況を伺っている。退去後、亡くなられた利用者様の葬儀に職員が参列した。そのご家族より野菜の差し入れをいただいた。他施設へ転居された利用者から再入居の希望があり、順番待ちしていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人との何気ない会話や気持ちを伺う中で、本人の意向を把握し、できる限り、本人の要望に沿うよう努力している。利用者様に食べたい物を伺い、献立に取り入れている。希望される利用者様には個人リハビリを行っている。	アセスメントシートを整備し、意向の把握に努めている。日々言動が変化する入居者もあるが、認知症の症状や経過を念頭に入れ、その方なりの表現と受け止めたり様子を見守りながら、場面に応じた支援に努めている。	今後も、入居者の言動を評価せず、その背後にある感情を分析した共感的理解で、思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族からの聞き取りを行い、主治医などから情報収集して対処している。昼夜逆転の利用者様には食事や入浴など他の利用者とは共通の時間以外ではできる限り自由に過ごしていただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中から利用者様一人ひとりの生活状況を把握、対処している。個人の状態に合わせて適宜休息できるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で、課題をミーティングなどで意見・情報交換を行い、検討し、現状に即した介護計画を作成している。歌、野球、動物など個人別に好まれそうなテレビ番組の放送を、声かけをしている。	日頃の状況把握を容易にしたいと、介護計画に沿った記録の記載に取り組んでいる。深夜までテレビを観るなどの入居前の生活習慣を受け入れながら、夜間頻尿の改善を支援したり、本人の家に帰りたいとの思いを目標に立ち上がりや歩行のリハビリを支援している。	明記された本人や家族の意向に沿った介護計画を実践するために、アセスメント内容やモニタリング結果をより具体的に記載し、現状に沿った短期目標やケア内容の抽出を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な気づき等介護記録や申し送りで情報を共有し、常に話し合い実践に繋げている。変化があるときはその都度見直しをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況の変化、要望等にあったケアを支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期で、利用者様に野菜の収穫や下ごしらえに携わっていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望したかかりつけ医との関係を継続している。週1回の訪問歯科、月1回の訪問診療、必要に応じて病院受診に対応している。緊急時の主治医との連絡体制もできている。	協力医療機関から定期的な往診を受ける入居者もあるが、定期や専門医療機関受診は職員が同行し、状況を随時家族に連絡や報告をしている。先日は、3日間外来で点滴を受ける間付き添うなど、適切な医療を受けれるよう支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師との情報交換を行い、状態変化等の場合は相談し、判断や助言を得ている。又、訪問診療の看護師とも連絡体制ができている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にも連携して相談・助言・指示をいただいている。家族の要望等を踏まえ、早期退院がホームの方針であり、そのことは病院関係者には理解いただいている。糖尿病の治療法を医療機関に相談し、インスリン注射から服薬治療に切替えていただいたことで当ホームで受け入れることができた利用者様もいらっしゃる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず重度化の対応の指針・DNR・DNIの意見表示の確認書を取り交わしている。重度化した場合は、利用者様・ご家族・主治医・当ホームが協議して、利用者様・ご家族の意向を取り入れた支援に努めている。	入居時に重度化の方針を説明し、意向確認書を取り交わしている。現在まで看取りはなく、経口摂取ができるぎりぎりまでホームでの生活を家族の理解や協力を得ながら支援している。先日、100歳で病院で亡くなった方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、職員が順次講習会に参加している。ホーム内の勉強会で1年に1回は講師から実践指導を受けている。 急変時に、救急車を手配し病院へ搬送したことにより早期に治療することができた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、火災や災害時の対策を立てている。夜間・日中の避難誘導のマニュアルを作成して地域のボランティアも参加した避難誘導通報訓練を年2回実施している。2018年の豪雨災害の際は、地域の方の呼びかけで公共施設を早期に開放していただき、避難することができた。	9月に実施した避難訓練では、居室の表札の裏面を活用した「避難済み」の表示は、立ち会った消防署から良い評価を受けた。2018年の豪雨時、自治会長の尽力で避難先に一泊できたことは、日頃の交流の賜物になっている。豪雨時は裏の水路や水田が溢れるのを避難の目安とし、飲料水や食料などを備蓄している。	昨今の異常気象を想定し、入居者の持ち出し書面の検討や、運営推進会議等を通じて、今回利用された施設使用を好例として、他の指定施設への避難が難しい現状を市に申し出られることを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に人間の尊厳を持って生きていく高齢者の支援を挙げ、職員に周知している。利用者様とは個人情報の取り扱いの受託書類を入居時に取り交わしている。職員とは入社時に契約書を交わし、個人情報の守秘義務を周知徹底している。	「○○ちゃん」、「先生」、「○○様」などの呼称を状況に応じて使い分け、本人や家族から了解を得て「○○ちゃん」と呼んでいる入居者もある。暴言にも対応する職員を交代するなど、理念を具現化するために、入居者本位の介護としてスローペースな対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や自己決定しやすい環境と関係を構築できるよう努力している。表出困難な利用者様には行動や表情から推し測ったり、丁寧な聞き取りを行うことで本人の希望を把握するようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位の介護を目標にしている。管理者はスローペースを心がけ、動作、言葉の速度、声の高さを利用者様に合わせるよう職員へ指示し実践している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様がお好みの洋服を着ていただいている。1日に複数回、着替えられる方、化粧品を使用される利用者様もいらっしゃる。 2か月に1回、訪問美容の日を設け、ヘアカットを行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や地域の風習を献立に取り入れている。個々の咀嚼・嚥下状態に合わせ、食事の形態を変えている。利用者様と職員と一緒に食卓を囲み、楽しい雰囲気作りを心がけている。お盆ふき、エプロンたたみなど軽作業は利用者様に行っていただいている。	誕生日の特別メニューは海老の希望が多く、春と秋のお彼岸にはおはぎやぼた餅を作り、年2回外食を楽しんでいる。日頃もテレビで見た献立などの要望を受け、旬の野菜や果物を楽しみながら、職員の見守りや声かけで個々のペースで完食している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1500ccを目標に支援している。主治医からの特別な指示のない方は1500kcal摂取を目安にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、おやつ後、職員が見守り、介助して口腔ケアを支援している。入れ歯は毎晩洗浄剤で消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様ごとの排泄パターンを把握するため排泄表を活用し、排泄誘導をしている。排泄が見られない場合はお腹に力を入れるよう声かけしたり、前かがみになって頂いたりして排泄を支援している。	入浴後の声かけや大きめ湯呑みを使用するなど工夫しながら水分摂取を促し、尿路感染を予防している。自分でトイレに行く入居者もあるが、前傾姿勢や腹圧の声かけで自尿を促したり、時間毎の誘導や声かけが実践されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを良くするため、体操を行ったり、水分の摂取を支援している。毎日、午前中にヨーグルトを提供している。便秘気味の方には起床時、牛乳を摂取していただいている。排便困難時は適宜下剤の投与、テレミンソフトの挿入など個別に対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は3日に1回、安全を考慮して職員2名体制で介助を行っている。時間帯は午後のことが多いが、特別な場合はその都度対応している。	入浴剤や庭のハーブで入浴を楽しんでもらい、浴槽からの立ち上がりが困難な入居者には、足浴やバスタオルの上からお湯をかけて温まってもらっている。(入浴する)説明を聞いていないなど入浴を拒否する入居者も、浴槽に浸ければ穏やかである。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様には、自由に過ごしていただいている。居室で過ごされるときは、照明、温度、湿度管理に気を配り、気持ち良く休めるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者・看護師は利用者の処方薬の効用・副作用について理解し、職員に説明している。服用後は症状の変化などないか観察している。服薬介助時は本人の確認を行い、お名前を声に出してお口の中まで介助し、飲み込まれるまで支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、洗濯干し、お盆ふきなど軽作業を行っていただいている。ご本人が好まれる食品を個別に預かり、他の利用者様に配慮して食べていただける対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望時はできるだけ、外での散歩を心がけている。花見、ドライブ、地域での行事はご家族・ボランティアの協力できている。ご家族との外出・外泊はできている。	年間行事計画に沿って、全入居者で桜の花見や芋ほり、紅葉狩りに出かけている。日頃は彼岸花見に散歩に出かけたり、天気がいい日はホームの庭の花をみながら、日向ぼっこをするなど、四季折々の外気浴を楽しんでいる。家族と外出を支援したいと、全家族に案内している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、お小遣い程度のお金でもご本人・ご家族に説明を行い、同意のもとで施設でお預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に了解している方には電話をしてお話していただいている。家族や親戚の方には手紙を出していただくようお願いしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の視界に入る場所に季節を感じられる花や置物を置いている。入居者様が居心地よく過ごせる空間を配慮しながら工夫していくように努めている。 複数台の空気清浄機を設置し、適宜換気を行い清潔な空気作りに努めている。居室のエアコン温度も利用者様の希望に合わせ調節している。	苑庭の畑は季節の野菜が栽培され、玄関前の丹精込めた季節の花々を、玄関や廊下に置かれたソファから眺めることができる。調査日も共用空間から健康体操の音楽が流れ、一段高くなっている畳の間は、カラオケ大会やボランティアの舞台となり、食後共用空間の椅子で居眠りをする入居者もあるなど、空調が管理され、多様な場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、リビング、庭にベンチ等を配置しており、各自が好みの場所で気の合う利用者様と楽しく過ごせるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や寝具、日用品、アルバム等を持ち込まれ居心地よく過ごされている。入居者様の状況に応じて、その都度工夫しながら居心地よく過ごせるように努めている。	ドアの前に表札と写真、お花が飾られている。全居室ともベットが整備され、清掃が行き届き整理整頓され、開けられた窓から田園風景を眺められる居室が多い。自宅から椅子やテーブルなどが持ち込まれ、家族写真が飾られるなど、居心地よい居室づくりを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個別に対応した安全な環境づくりに努めている。入居者様の残存機能を生かせるように常に工夫している。		